

新しい左京区基本計画づくり

ニュースレター 第2号

発行日 平成21年3月17日
発行者 左京区役所区民部総務課
Tel 771-4235
Fax 771-6900

第2回 左京区 住民円卓会議を開催しました！

2月10日にアピカルイン京都において、第2回左京区住民円卓会議を開催しました。会議には43名が参加し、第1回と同様に4つのグループに分かれ、10年後の豊かな暮らしとはどのようなものなのか、またその実現に向けて人々との連携によって何ができるかについて、熱心に話し合いが行われました。

プログラム

- グループ討議①
10年後に残したい、このまちの宝
- グループ討議②
10年後に向けて、わたしたちができること
- 発表

前半のテーマは「10年後に残したい、このまちの宝」でした。各地域の文化施設や四季折々の自然、あるいは、歴史的な伝統行事や地元根付いている自主的な取組活動といった身の回りの「宝」を確認すると同時に、将来には引き継ぎたくない地域の課題をじっくりと話し合っていました。

後半は、前半の話し合いをさらに深めるため、「10年後に向けて、わたしたちができること」というテーマでした。このテーマでは、「宝」を次世代の子どもたちに継承し、今ある課題を解消して、みんなが豊かに暮らすためには、どんな協力や連携が必要なのかを考えていただきました。わたしたちを取り巻く人とのつながりを考え、「わたしたちと子どもたちで何ができるだろう」「わたしたちと大学生ならこんなこともできるかもしれない」など、より具体的に考えていただきました。



各グループでの話し合いの内容を発表することにより、他の地域の現状や抱えている問題、さらに問題解決のための取組などがよくわかり、それぞれの地域での取組の参考になったのではないのでしょうか。各グループでの話し合いの内容は、2ページから6ページを御覧ください。

参加者の皆様には、短い時間であったにもかかわらず、活発な話し合いをしていただき、誠にありがとうございました。今後は、この話し合いの結果を新しい基本計画案に反映していくとともに、さらに次の話し合いへとつなげていく予定です。

討議① 10年後に残したい、このまちの宝

「文化公共施設、伝統文化、地域コミュニティは残したい。他方で、密集したまちやゴミ問題、サルなどの有害獣問題は残したくない」などと話し合いました。

※ 代表的な3項目を選びました。

討議② 10年後に向けて、わたしたちができること

「子どもから高齢者までの世代を超えた地域交流で伝統文化を伝えることが大切であり、ゴミ問題については、清掃活動の習慣付けが大切である」と話し合いました。

残したいもの (※)

文化公共施設

歴史や伝統文化といった観光資源

世代を超えた和やかな地域性

残したいもののために

地域の人たちがある程度の知識を持って案内できるようにする。



残したいこと (※)

伝統的地元行事

お互いの顔が見える地域のコミュニティ

豊かな自然環境

残したいことのために

子どもも小さいころから伝統的な祭りや行事に参加し、高齢者と交流する。子どもに大人が伝統行事について説明する。中高生や子どもの親世代にも伝統行事を積極的に伝える。

地域のコミュニティは、子どもを中心に教えていく。若い力、子どもが主役のまちづくりをしていく。

残したくないもの (※)

狭い道路、老朽住宅のある密集したまち

環境問題につながるゴミ問題

サルなどの有害獣問題

残したくないもののために

ゴミ問題は、小さいときから分別意識を持ってもらうとともに、学校や地域、大学生が一緒になってゴミ回収ボランティアをする。



残したくないこと (※)

少子高齢化

一部に残る、外のものを受け入れにくい排他的な面

累積赤字

残したくないことのために

何らかの対策を考える。

累積赤字は京都市全体の問題である。

討議① 10年後に残したい、このまちの宝

「歴史、文化、伝統行事を残していきたい。他方で、ゴミ問題や交通の妨げになる駐車や駐輪、大きな建物は残したくない」などと話し合いました。

※ 代表的な3項目を選びました。

討議② 10年後に向けて、わたしたちができること

「歴史、文化、自然を残すには、子どもから大人までの幅広い応援が必要である。ゴミ問題の解決では、子どもたちにゴミ資源の勉強をしてほしい。地域みんなで参加できる流れにしたい」などと話し合いました。

残したいもの (※)

歴史、文化(名所、史跡)

店の文化(ラーメン文化)

自然・緑・水(各地の地下水)

残したいもののために

学校行事で名所や史跡に行くときは、清掃などもする。

大学生の卒業論文に取り上げてもらう。

中高生、子育て世代のお父さん、お母さんがボランティアで河川の清掃を行う。学校などとタイアップしていく。地下水マップをつくる。

残したいこと (※)

祭りや伝統行事、それらの運営組織

残したいことのために

子どもから高齢者まで、全世代で参加する。マンション住民にも参加してもらう。大学生には研究テーマにしてもらう。



残したくないもの (※)

交通の妨げになる駐車や駐輪

大きな建物(高いマンション)

ゴミ問題

残したくないもののために

子どもに、ゴミ資源の勉強をさせる。マンション管理者にゴミ回収のルールを徹底してもらう。



残したくないこと (※)

ゴミの回収方法

町内組織がバラバラに活動していること

残したくないことのために

日頃の回収のために、住民が組織をつくる。

みんなが参加できる統一した組織にしていく。

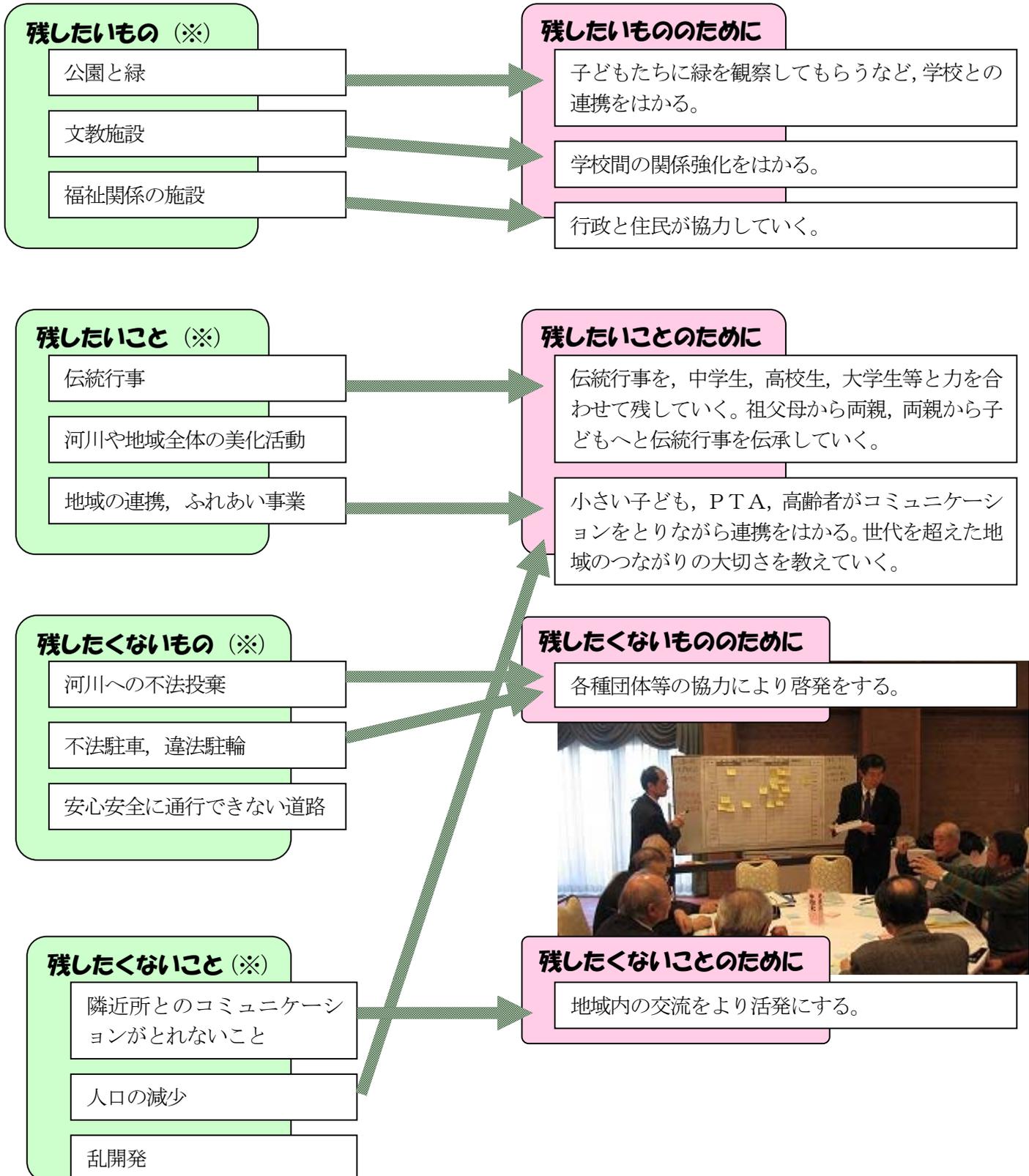
討議① 10年後に残したい、このまちの宝

「公園、緑、伝統行事や地域の連携は残したい。他方で、不法駐車、違法駐輪、未整備の道路は残したくない」などと話し合いました。

※ 代表的な3項目を選びました。

討議② 10年後に向けて、わたしたちができること

「自然、文教施設を残すために、行政と住民が協力していく。地域それぞれがコミュニケーションをとって、多くの世代の連携をはかりたい」などと話し合いました。



北部グループ(花脊峠以南) — 八瀬・大原・静原・市原野・鞍馬

討議① 10年後に残したい、このまちの宝

「自然や文化、美しい山々や町並みなどの景観は残したい。他方で、交通の便の悪さや、不法投棄、少子高齢化は残したくない」などと話し合いました。

※ 代表的な3項目を選びました。

討議② 10年後に向けて、わたしたちができること

「自然、景観や歴史を残すため、子どもから大人までの世代や観光客の協力が必要。伝統行事を行うときは全世代に呼びかけていく」などと話し合いました。

残したいもの (※)

自然と文化

美しい山々などの景観

町並みを含めた景観

残したいもののために

ハイキングコース等で結んで地域の良さを生かす。

大人と子どもが一緒になってゴミ一掃作戦を継続する。

景観を守るため、地域住民もできることをしていく。観光客の力で地域を守る。(協力金、募金等)

残したいこと (※)

伝統文化

古くからの生活様式、しきたり

地域のつながり

残したいことのために

行事を行うときは、積極的に全世代に参加を呼びかけ、高齢者から指導する。

子育て世代の人に、地域に関心をもってもらえるようにする。世代間、住民間のふれあいの場を設ける。地域で常に会合を持ち、結束をはかる。

地域を離れた若い世代と懇談する。

残したくないもの (※)

狭い道路、交通の便の悪さ

乱開発や環境破壊、不法投棄

遅れている医療問題

残したくないこと (※)

少子高齢化

新旧住民間のコミュニケーションの不足

残したくないことのために

空き家を活用する。

各種団体や行政と住民が協力する。



北部グループ(花脊峠以北) — 花脊・別所・広河原・久多

討議① 10年後に残したい、このまちの宝

「林業を含む産業、自然、子ども、伝統文化は残したい。他方で、空き家、空き地、不便な土地、地域の格差、鳥獣害は残したくない。生活環境の改善を望む」などと話し合いました。

※ 代表的な3項目を選びました。

討議② 10年後に向けて、わたしたちができること

「北部と南部では格差がある。林業が最大の産業であり、子どもに林業を伝えたい。また、地域の人々と話し合いながら自然を残していきたい。話し合うことにより地域をまとめていきたい」などと話し合いました。

残したいもの(※)

林業を含む産業

自然

子ども

残したいもののために

高齢者と子どもたちが、林業の大切さについて話し合う。休耕田を活用するなど、地域にあった取組を推進する。

これまで自然を守ってきた高齢者や地域の人々が話し合いながら自然を守っていく。

残したいこと(※)

伝統文化(花脊松上げ、久多の花笠踊り、虫送り、宮座敷など)

地域のまとまり

残したいことのために

伝統文化を良く知っている高齢者が、各地域の各種団体と一緒に話し合い、地域のまとまりをつくっていく。地域を離れている若者とも話し合いの場を持つ。

残したくないもの(※)

空き家、空き地

地上デジタル放送受信の整備

残したくないもののために

ホームページで空き家などがあることを引き続き広報していく。

残したくないこと(※)

不便な土地

地域の格差

鳥獣害

残したくないことのために

地域の格差、不便な地域などの課題は道路整備やトンネル整備につながっている。